

兵庫県・西宮市

キッザニア甲子園

—社会に役立つ喜びを知る子どもの体験施設—

松田曜子 編集委員

本連載の趣旨は「土木」を扱う博物館の紹介だが、そもそも今の子どもたちは、大きな橋や建築物を見て、それをつくった大人たちに思いを馳せることがあるだろうか。そんな問いを胸に、今回は2009年3月にオープンしたばかりの子どものための職業・社会体験施設「キッザニア甲子園」を訪れた。

キッザニアは、約3分の2スケールのまち並みのなかで、子どもが仕事や習いごと、買い物などの体験ができる施設である。施設内で流通する通貨「キッズ」はキッザニア内の銀行に預金し、ATMで引き出すこともできるというリアルな設定だ。

まずは建設現場のパビリオンへと向かった。ここでは小学生の男の子がヘルメットをかぶり、キッザニア・ブリッジというアーチ橋の建設に熱心に取り組んでいた。アーチ橋は14個のブロックでできていて、計画通りの順番で組み立てていく。支保工を組み、ブロックを積み、支保工を外すという手順だ。最後にはなんと実際に人が渡れる強度をもつ橋が完成する。もう1人の子は、クレーン操作で部材を持ち上げ、キッザニア・タワーを完成させる。クレーン操作の指示は本格的だ。橋とタワーが完成すると、記念撮影。小さいながら、達成感にあふれた顔がたくましい。

キッザニアは、自らを職業体験ではなく社会体験施設と呼んでいるように、お金が巡るしくみや働くことの

困難さ、そしてなにより、あらゆる仕事が何らかの形で社会を支えているのだということを感じさせる工夫が随所に見られる。電力会社のパビリオンでは、台風による停電を復旧させる使命感に燃えた子どもにも遭遇した。これ以外にも、約50のパビリオンで80種類もの体験ができる。

広報の上田ひろみさんによると、職業の選択に男女差は思ったほどなく、建設現場に挑む女の子もたくさんいるという。一方で、キッザニア発祥の地メキシコでは、多くの子どもが入場時にキッズをもらうと、まず習いごとをしたりして先に使う傾向がある一方で、日本の子どもたちは、働いて得たキッズを銀行の口座に預けて貯める傾向があるという。子どもたちの職業選択行動や消費行動は、大人の世界で新しい制度を設計するうえで興味深い知見ではないか。

なお、キッザニアに入場できるのは大人同伴の3歳から15歳までの子どもである。日本には、今回取材した甲子園のほか、東京の豊洲にも施設がある。

Access アクセス

所在地 〒663-8178
兵庫県西宮市甲子園八番町1-100
ららぽーと甲子園

電話 0570-06-4343
(キッザニア甲子園インフォメーションセンター)

交通 阪神電車「甲子園駅」下車、徒歩8分

開館 第1部 9:00～15:00
第2部 16:00～21:00
(完全入替・2部制)不定休

入場料 子ども:3,300～3,850円、
大人:2,000～2,100円
(曜日・時間によって異なる)

URL <http://www.kidzania.jp/koshien/>





切れた電線を修理せよ!



支保工の上に部材を積んでいく



仕事の基本はあいさつから



息子はホースを、父はカメラを



無事点灯。完成したタワーの前で竣工写真を撮影



まちのサイズは約3分の2スケール